



# 令和8年度 施政および予算編成方針

～人をはぐくむ、くらしを守る 伊賀のひだまり予算～

2月26日(木)、令和8年伊賀市議会2月定例会議の開会にあたり、稲森市長が令和8年度に向けて施政および予算編成方針を述べました。ここではその概要をお知らせします。

☎ 秘書広報課 ☎ 22-9600 FAX 24-7900

## くらしをまもる

### 健康

伊賀市のがん検診受診率は、県内で最も低いレベルであり極めて深刻です。そこで、「最下位脱出ーがん検診V字回復プロジェクト」を立ち上げ、がん部位別の死亡者数が最も多く、医療費が最も多くなる肺がんの検診の啓発・支援を重点的に強化し、受診率の向上に努めます。

### スポーツ

阿山第2運動公園を人工芝化するなど、「人が集まる」「人がつながる」スポーツ施設の整備を進めます。また、スポーツ合宿などの誘致を図るため、団体などに対する宿泊補助制度を新設し、交流人口拡大や地域活性化を推進します。



阿山第2運動公園

### 高齢者・障がい者福祉

福祉人材の確保は喫緊の課題です。

## いのちをまもる

### 防災・危機管理

近年の大規模地震の発生を踏まえ、南海トラフ地震に備えて、生活物資の備蓄や通信手段の確保などにより被災者の生活環境を整備します。孤立しやすい地域を重点的に防災・減災対策を強化し、地域とともに生命と財産を守ります。



伊賀市総合防災訓練の様子(花垣地区)

### 都市政策

年間約10万人が訪れる上野公園では、トイレの洋式化や景観に配慮した樹木伐採を行い、来訪者が安心して利用できる環境を整えます。にぎわい・交流人口の創出や持続可能な市民生活の実現につながる自転車の活用を推進するため、「伊賀市自転車活用推進計画」の策定に向けた検討を進めます。



上野公園内トイレ

### 公共交通

令和9年度以降の公共交通の方向性を示す「伊賀市地域公共交通計画」を、地域公共交通活性化再生協議会で策定します。伊賀鉄道については、次期「鉄道事業再構築実施計画」を策定し、安定運行の確保に努めるとともに、近鉄と沿線まちづくりの課題を共有し、連携・協力を進めます。



伊賀鉄道

## ひとをはぐくむ

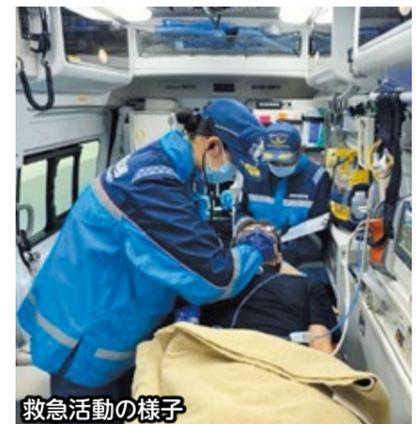
### 子ども

「子どもの権利に関する条例」の制定に向け、こどもの意見反映を重視し、庁内で連携して進めます。出前講座やこども向けワークショップなどで意見を集め、夏頃に中間案を公表する予定です。

改正民法で養育費の支払いが親の責務と明確化されたことを受け、養育費の取り決めにかかる公正証書作成費用を助成する制度を創設します。このことにより、ひとり親家庭の経済的自立と、こどもの健やかな成長を支援します。ジェンダー平等や家事負担軽減、地

### 消防・救急

救急需要の増加に対応するため日動救急隊を新設し、伊賀消防署で運用します。救急体制の充実・強化を図るとともに、働きやすい職場環境を整備します。



救急活動の様子

### 医療

伊賀地域の二次救急医療体制は、3つの基幹病院が連携して現在の体制を維持しています。産科医療は、伊賀地域で分娩可能な施設が市内1カ所のみのため、県や名張市と協調して医療機関への支援を進めます。

上野総合市民病院では、県の「新たな地域医療構想」を注視しつつ、今後の地域医療のあり方や施設整備を検討します。医師確保は厳しい状況ですが、4月から常勤する消化器内科医1名を確保し、臨床研修医3名を内定しました。また、下部内視鏡装置や透視装置、生化学自動分析装置などを更新し、医療の質を高めます。

産地消・食育の観点から、すべての公立保育所で給食の米飯を無償提供します。私立保育所・認定こども園にも同様の提供を働きかけ、実施する施設には保護者負担分を助成します。

赤ちゃんと保護者が絵本を通じてあたたかいふれあいの時間をもてるよう、ブックスタート事業として、生後4カ月までの乳児を対象に絵本の配布を復活させます。

### 人権・平和

幼いこどもや大人による差別につながる発言が発生していて、人権啓発の不足と相談体制の強化が必要だと感じています。令和7年度に実施した被差別当事者や支援団体への聞き取りの結果を踏まえ、当事者団体や有識者を交えた相談調整会議を立ち上げます。

平和推進の取り組みでは、「平和の集い」をブラッシュアップして開催し、戦争の悲惨さや平和の尊厳、憲法理念を広く周知し、次世代の平和リーダーを育成します。



伊賀市戦後80年平和の集い

### 学校教育

いがまち地区の中学校校区再編を検討する協議会を設立し、協議を進めていきます。霊峰中学校の校舎を利用し(仮称)霊山中学校の令和9年4月開校をめざし、よりよい教育環境を整備すべく校舎・体育館などの改修を行います。



霊峰中学校校舎

### 生涯学習

令和9年1月に「二十歳のつどい」を開催するため、実行委員を募り、当事者の声を反映して準備を進めます。市民アンケート結果と、意見交流会での意見は、実行委員会で企画・運営に反映します。誰もが楽しめる式典を通じて若者の市政参加を促します。

### 文化・芸術

新しい芭蕉翁記念館は、「伊賀鉄道伊賀線南側の市街地活性化に貢献し、芭蕉翁顕彰を核に伊賀の歴史・文化に触れる場になりたい」という私の思いを委員会に伝えました。これまで、委員会では施設のめざす姿や基本理念、事業活動計画、展示計画などを検討しています。今後、基本計画のパブリック

コメントを募集した上で答申をとりまとめたいと予定。新記念館は、芭蕉翁の直筆資料などの貴重な財産を保全・調査・継承することにも、こどもや家族が集い、にぎわいを生む施設をめざします。



芭蕉翁記念館

現存する芭蕉直筆のものうち、最も古いとされる短冊を購入し、芭蕉生誕地・伊賀市の価値を高め、全国・世界へ発信します。

### 多文化共生

伊賀市は1990年代以来、多くの外国人住民とともに歩んできたまちです。社会に漂う排外主義的な風潮に流されることなく、理解や交流を深めるきっかけとなる「多文化共生ガイドブック」を作成し、外国人住民が地域で活躍できる、包摂性のあるまちづくりを進めます。

## にぎわいをしるる

### 都市拠点

旧上野ふれあいプラザ跡地の有効活用をめざし、学識経験者や建築・芸術

の専門家、市民を委員に「跡地活用デザイン会議」を発足しました。にぎわい忍者回廊との一体化や周辺環境との調和を踏まえた市民に開かれた議論を進め、市街地エリアの未来に希望の持てる拠点整備を進めます。

4月1日には新図書館「伊賀市中央図書館」を開館します。蔵書や各種サービスを充実させ、市民とともに作る交流型図書館「学び・創造・憩いの広場」をめざします。施設完成がゴールではなく、今後は伊賀市にぎわいパートナーズなどと連携し、中心市街地全体の価値向上と、誰もが歩いて楽しく誇れるまちづくりを進めます。



伊賀市中央図書館 (旧上野市庁舎SAKAKURA BASE内)

また、市営城北駐車場を無料化し、大型観光バスの駐車枠を5台から10台に拡大し、上野公園・中心市街地への来訪者増加と利便性向上を図ります。

### 地域経済

過去最大のプレミアム率100%の「かがやけーくらし商品券」は、物価高に苦しむ市民の暮らしを守り、地域経済を活性化するために4月中旬の販売

極的に地域に向き、皆さんの思いや考えをお聞きします。

### 行政経営改革

第3次伊賀市総合計画の「めざす姿」の実現に向け、行政経営改革の考え方と職員の業務支援ツールとなる4つのガイドラインをまとめた「共感による公共マネジメントパッケージ」を策定しました。「ひと・もの・かね」が減少する中、職員が自律的に改革を考え、市民との共感を生む行政となるための仕組みを構築します。

また、「市民参加型予算事業」を実施し、寄せられた提案を令和9年度当初予算へ積極的に反映します。

### 公共施設のあり方

あやま文化センターと阿山ふるさと森公園の利活用について、「あやまの公共施設を考える会」と「阿山地区住民自治協議会連絡会」からの提言を精査した上で、課題整理と実現可能性の調査・検討を進めています。今後は「(仮称)あやま文化センター施設活用等検討委員会」を設置し、市民



あやま文化センター

森林境界の明確化や、環境林の整備・保全、伊賀産材の出荷・利用拡大、災害に強く魅力ある山づくりを推進します。また、伊賀産材の供給拡大のための補助制度を創設し、自伐型林業の推進に向けた調査や担い手育成を進めます。

### 関係人口創出

これまで、移住コンシェルジュによる相談や定着支援、移住セミナーや補助金、ポータルサイト・SNSでの情報発信などを強化し、移住促進に注力してきました。相談件数は増加しています。令和7年度の移住者数は過去最高の見込みです。今後も伊賀の魅力発信し、「来たい・住みたい・住み続けたい伊賀市」の実現をめざします。

## つなぐ・つなぐ・つなぐ

### 広聴広報

「市長と市民のつながり」を結び直すため、市長が直接出向く「あなたと話したいー市長ふれあいトーク」を、これまで14回実施しました。226人の皆さんと環境や防災、暮らしの基盤、子育て・高齢者支援、地域活性化などの分野について意見交換をしました。引き続き、より使っていたください制度への見直しも進めながら、月2回程度の実施を継続し、地域課題の解決や市政のブラッシュアップに向けて積

参画・協働のもと検討を進めます。また、大山田地域の公共施設複合化整備は地域や関係団体と協議を重ね、地域の拠点となる施設づくりをめざします。

### むすぶ

「第3次伊賀市総合計画」に掲げた将来像「すべてのひとが輝く地域が輝くーみんなで話そう伊賀市の未来」の実現に向けて、「共感」による公共のしくみづくり、「まなび」によるひとづくりを皆さんと一緒に全力で進めていきます。

令和8年度は、市政の推進に必要な不可欠な市民と行政との間に「共感」を生み出すことのできる組織づくりに取り組めます。複雑化する市民や地域のニーズに迅速かつ的確にこたえるために、部局横断の政策調整を強力に図るための体制を整備します。さらに、本庁と各支所との連携強化と地域振興を支える体制も充実させ、皆さんとともに「まち」と「むら」がともに輝く個性豊かで持続可能なまちづくりに挑戦していきます。

市民の視点と市民参加のプロセスにこだわりの、その積み重ねの先にこそ、このまちの自治と民主主義が豊かに花開く未来があると確信しています。

※施政方針の全文は、市ホームページでご覧いただけます。

